

こどもの病気対策法^{⑩5}

―夜間のこどもの咳―

大分大学客員教授 是 松 聖 悟

子どものいるご家庭に配布してきた、こどもの急病対応のフローチャートの改訂をしています。今回は「夜間のこどもの咳」です。

咳の原因として多いのは、風邪や気管支炎、肺炎などの感染症や、ぜんそく、鼻炎、副鼻腔炎(ちくのう)などのアレルギーです。赤ちゃんを呼吸困難にさせてしまう細気管支炎や、長引くものとしては百日咳などもあります。また、稀ですが逆流性食道炎や心臓病、結核、気管異物や心因反応などでも咳はできます。

ただ、夜間に急に咳き込みだした場合は、感染症やアレルギーを想定して対応することが良いと思います。もっとも大切な判断ポイントは、眠れるか、眠れないかです。眠れるようであればそのまま夜間を過ごし、翌朝、病院やクリニックを受診してください。眠れないようであれば、水分を飲む、本人用の咳の薬(内服、貼付薬、吸入)を使用するかなどしましょう。ぜん

そくなどの体質がある場合は、このような場合に備えて、あらかじめ1〜2日分の薬をストックしておくことをお勧めします。また、寒くない範囲で部屋を換気するとか、外を散歩するなど咳が治まることもあります。これらを試しても眠れない、苦しい場合は、こども救急電話相談(#8000)に問い合わせ、指示にしたがってください。もちろん個人差はありますが、で、心配な場合も#8000に問い合わせてください。

さて、私ごとですが、今年度、16年ぶりの異動を指示され、大分大学からは客員教授の称号をいただき、中津市民病院に副院長として着任しました。中津市のご厚意でこれから津久見中央病院でのアレルギー外来は継続させていただきます。ご希望がありましたら、これまで通り出張講演も可能ですのでお声掛けください。今後ともよろしくお願ひします。

夜間のこどもの咳 フローチャート

